

2008 年度

科目名 国語学概論	対象学科・学年 文学部文財1回生	担当者 佐藤 愛弓
授業テーマ 日本語の変遷		
授業の概要と目標 私たちが話している日本語はどのような変遷を経て現在のような言葉となったのだろうか。国語学上のトピックを挙げて、日本語がどのように変化していったのか基本的な流れを学習する。		
評価方法 授業の参加状況（全授業数の3分の2以上出席しないものには単位をみとめない）と、期末レポートの結果による。		
テキスト 日本語の歴史	著者 山口明穂ほか	出版社 東京大学出版会
参考書 なし	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1 文字の受容と使用 2 奈良時代の日本語 万葉仮名、 3 奈良時代の日本語 上代特殊仮名遣い 4 平安時代の日本語 仮名の成立、 5 平安時代の日本語 ハ行転呼音、オとワの混同、 6 平安時代の日本語 漢文訓読語、 7 鎌倉・室町時代の日本語 漢字仮名交じり文、 8 鎌倉・室町時代の日本語 開音合音の区別、音便 9 鎌倉・室町時代の日本語 サ行音の変化、連濁 10 鎌倉・室町時代の日本語 キリシタン資料、女房言葉 11 江戸時代前期の日本語 「エ」「オ」の変化、オ長音の開合の区別の消滅 12 江戸時代前期の日本語 四つ仮名の混同、ハ行音の変化 13 江戸時代前期の日本語 長音の短音化、半濁符の出現、武家言葉 14 江戸時代後期の日本語 合拗音の直音化、連母音の融合 15 江戸時代後期の日本語 「デス」「デアル」の成立、上方語と江戸語		